授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!!

西部の英語科の未来へバトンをつなぐ

令和元年７月発行

西部教育事務所

今年度より、「英語科」においても授業づくり講座が県内各地で開催されています。西部管内では四万十市立東山小学校が拠点校となっています。
今回は６月１８日(火)に東山小学校で行われました教材研究会の様子を紹介します。

西部管内の講座関係のＨＰ

【提案内容】小学校４年『Who am Ⅰ？ ～私はだれでしょう～』クイズ大会で友だちを紹介しよう！
教材『Let's Try！2　Unit 4　What time is it？』
【授業者】中越 一宏 教諭(HRT)、池田 真代 教諭(JTE)、マデリン・アームストロング(ALT)（四万十市立東山小学校）

新学習指導要領 領域別目標　(2) 話すこと［やり取り］ウ

サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標　話すこと［やり取り］ウ

自分や相手の好み及び欲しいものなどについて、友だちや教師からのサポートや視覚的な補助があれば、簡単な質問をしたり質問に答えたり、それに対して反応したりしている。

本時（３/４時間目）の目標（◆）とめあて（◇）

◆自分の好きな時刻や理由について、尋ねたり答えたりして伝え合う。
◇『Who am Ⅰ？ ～私はだれでしょう～』クイズ大会で友だちを紹介するために、好きな時刻と理由を伝え合おう。

①課題の所在

①外国語活動の授業を楽しんで取り組んでいるものの、「話すこと」特に［やり取り］の領域において苦手意識が強い。他教科においても、積極的に発表したり、友達と交流したりすることにおいて苦手意識を抱いている児童が多い。

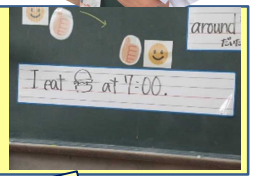
②提案・趣旨説明

②・単元ゴールの言語活動を「Who am Ⅰ？ クイズ」に設定し、Unit４をUnit１、Unit３の自分の好きなことを伝え合う活動と関連付け、「クイズ大会で友達を紹介する」ために［やり取り］を行い、情報を得る目的を持たせる。ワークシートもこれまでの単元で知った友達の情報を１枚で見られる工夫をし、既習の学びを活用できるようにした。
・［やり取り］をすることや友達と交流すること等の弱さについては、カンバセーションマップや教師からのサポートを受けたり、単元を通して繰り返し交流し合える場面を設定したりすることで改善を図りたい。児童自身が友達と［やり取り］をすることで「言えた」「質問できた」という達成感につなげたい。
・児童の表現の質を高めるため、『言いたかったけど言えなかった表現』を取り上げ、フィードバックしながら表現力を高める。

③模擬授業参観の視点

視点❶本時の言語活動をより質の高いものにするための中間評価になっているか。
視点❷単元ゴールが目的・場面・状況に応じた適切な言語活動になっているか。

【協議より】視点❶：○児童から挙げられた『言いたかったけど言えなかった表現』等を黒板に提示することで、表現の視覚支援につながっていた。
●中間評価を受けて新しい表現を知ったが、それを使った児童はいただろうか。新しいフレーズについてはもう少しインプットが必要ではなかったか。
●中間評価を入れるのも２、３回にするなどして、ステップアップさせて、段々と良くなっているのを実感できるようにしてはどうか。
視点❷：○特別活動と関連させて自分の一日を考えさせたり、他の単元で習った表現を使ってスパイラルに使えるように単元を組み立てたりしている点が良い。
●１時間目にクイズ大会を行い、学習を通して４時間目にも再度実施し、最初と最後で変容を見られるような取組があると良いのではないか。



講師：鳴門教育大学　中妻 佳代 准教授による指導・助言

★**中間評価の観点や変容の共有方法を計画しておく。**

今回の模擬授業では、児童の活動を学級担任がタブレットで撮影し、中間評価で映像を提示していたが、映像を通して子供たちにわかってほしいことは何なのか、どのような場面を撮るのかを決めておく必要がある。今回の映像では音声が聞こえづらい面があり、視覚だけの情報になっていた。コミュニケーションの質を高いものにしていくのであれば、視覚だけの情報で良いだろうか。表現面の評価であれば、実際に発表させる方法もある。中間評価では何を評価し子供たちに返していくのか、観点を明確にしておくことと、変容を何で見取り共有するのかを計画しておくことが大切である。

★**学習指導要領を理解したうえで、ゴールに向かう活動を適切に設定し、子供たちが言える授業を組んでいく。**

中学年で身に付けるべき資質・能力は、コミュニケーションを図る素地である。「コミュニケーションを図りたいな。外国語を使って友達といろいろなことを伝え合えて嬉しいな。」という経験をたくさん積ませることが大切である。
中学年の言語活動を設定するに当たり大切なこととして、学習指導要領解説(P29)には次（左下）の３点が挙げられている。その３点を踏まえ、本時のゴールに向かう活動は適切であるか、活動内容につながりがあるか、児童の興味・関心が続き、間延びしない時間設定であるか、言えるようになるためのインプットの量は適切であるか、などを検討する必要がある。子供たちは言えなかったら自信が持てない。子供たちが言えるように授業を組んでいくことが大切である。練習は言語活動を成立させるためには重要であるが、練習だけで終わることのないよう、ゴールでは子供たちが生き生きとして友達に自分の好きな時間を言いに行ける、聞きに行けるまでに育てていく、導いていく必要がある。

・児童が興味・関心を持つ題材
・聞いたり話したりする必然性のある体験的な活動を設定する
・聞く活動が十分設定されること

参加者の声

☆子どもたちの資質・能力を伸ばすためには、教師がどのような視点をもって授業をするかが大切であることが分かりました。
☆中間評価でその後の活動へつなぐために、何を取り上げるかを考えて、仕掛けを仕組んでいこうと思います。
☆良質なインプットのある授業づくり、既習単元や他教科とのつながりを意識した授業づくりをしたいと思いました。
☆中妻先生が繰り返し言われていた「教室で英語をしっかり使える授業にする」ことを大切にしていきたいと思います。
☆学習指導要領を基に、児童の実態に沿った授業づくりの大切さを教えていただきました。

※次回の講座は、７月９日（火）です。持参物は『新教育課程を活かす能力ベイスの授業づくり』です。「Let's Try！2」、「小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説『外国語活動・外国語編』」をお持ちの方はご持参ください。